

研究背景と目的

Escherichia albertii は2003年に新種と承認された菌種であり、人獣共通感染症原因菌とされている。近年、本菌を原因とする食中毒の集団発生が報告されているが、ヒトへの感染経路など汚染実態は明らかになっていない。本研究では、*E. albertii*の感染経路の一つとして考えられている環境水中の汚染実態を調査し、県内の汚染状況を把握することで、食中毒の予防や注意喚起に役立てることを目的とする。

<*E. albertii* の特徴>

生化学性状

	<i>E. albertii</i>	<i>E. coli</i>
乳糖分解	-	+ or -
運動性 (37℃)	-	+ or -
キシロース分解	-	+
ベロ毒素	+ or -	+ or -
ホト赤痢菌血清型13	+ or -	-

- ・大腸菌と性状が類似
- ・腸管出血性大腸菌と同じベロ毒素を持つ場合あり
- ・赤痢菌 (*S. boydii*) 血清型13と同一の抗原の場合あり

➡ 誤同定される可能性あり

<福井県における食中毒疑い事例>

- ・令和元年6月、県外の中学生在が校外学習のため来県(2泊3日)
- ・体験型施設(魚捌き体験)を利用した生徒7名から *E. albertii*が検出された
- ・施設の拭き取り検体およびインストラクターはすべて陰性 → 食中毒と断定するには至らなかった

<県外における集団食中毒事例より>

食中毒の原因食品として確定しているのは、キャンプ場の洗浄用水を誤って飲んだ事例のみ



環境水の汚染が感染経路のひとつとして考えられる

期待される効果

- ・福井県内における環境水中の *E. albertii* 汚染状況が把握できる
- ・県内における *E. albertii* の動向や疫学が明らかになることで、食中毒への注意喚起、感染予防対策が実施でき、県民の健康保持につながる
- ・当センターでの検査体系が確立されることで、食中毒発生時の迅速な対応が可能となる